

平成29年度盛岡地域県立病院運営協議会

日 時 平成30年1月23日（火） 15：00～

場 所 県立中央病院4階大ホール

1 開 会

○板倉宏樹中央病院事務局次長 それでは、ただいまから平成29年度盛岡地域県立病院運営協議会を開催いたします。私は、司会進行を行います事務局次長の板倉と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本日の会議は公開となっております。また、会議の内容は岩手県のホームページに掲載されますことから、委員の皆様にはあらかじめご了承願います。

2 委員紹介

3 職員紹介

○板倉宏樹中央病院事務局次長 それでは、次第に沿って進めてまいります。第2の委員紹介と3の職員紹介は、続けて小笠原事務局長からご紹介申し上げます。

○小笠原一行中央病院事務局長 事務局長の小笠原でございます。それでは、本日ご出席の委員の方々をご紹介させていただきます。

初めに、ステージに向かって左側にお座りの委員からご紹介させていただきます。

当盛岡地域県立病院運営協議会会長の谷藤裕明盛岡市長でございます。

○谷藤裕明会長 よろしくお願いたします。

○小笠原一行中央病院事務局長 同じく副会長の民部田幾夫岩手町長でございます。

○民部田幾夫副会長 よろしくお願いたします。

○小笠原一行中央病院事務局長 紫波町長、熊谷泉委員でございます。本日は、代理で生活部長の鱒沢久年様にご出席いただいております。

○鱒沢久年委員代理（熊谷泉委員） よろしくお願いたします。

○小笠原一行中央病院事務局長 岩手県議会議員、千葉絢子委員でございます。

○千葉絢子委員 よろしくお願いたします。

○小笠原一行中央病院事務局長 盛岡市医師会長、和田利彦委員でございます。

○和田利彦委員 よろしくお願いたします。

○小笠原一行中央病院事務局長 岩手西北医師会長、高橋邦尚委員でございます。

○高橋邦尚委員 よろしくお願いたします。

○小笠原一行中央病院事務局長 紫波郡医師会長、木村宗孝委員でございます。

- 木村宗孝委員 よろしくお願ひします。
- 小笠原一行中央病院事務局長 岩手県歯科医師会専務理事、大黒英貴委員でございます。
- 大黒英貴委員 よろしくお願ひします。
- 小笠原一行中央病院事務局長 盛岡薬剤師会常務理事、高林江美委員でございます。
- 高林江美委員 よろしくお願ひします。
- 小笠原一行中央病院事務局長 岩手県看護協会会長、及川吏智子委員でございます。
- 及川吏智子委員 よろしくお願ひいたします。
- 小笠原一行中央病院事務局長 次に、右側にお座りの委員の皆様を紹介させていただきます。

岩手県県央保健所長、菅原智委員でございます。

- 菅原智委員 よろしくお願ひします。
- 小笠原一行中央病院事務局長 盛岡市保健所長、高橋清実委員でございます。
- 高橋清実委員 よろしくお願ひいたします。
- 小笠原一行中央病院事務局長 盛岡地区広域消防組合消防本部消防次長兼消防本部警防課長事務取扱、高橋利光委員でございます。本日は、代理で警防課長補佐の佐々木猛志様にご出席いただいております。
- 佐々木猛志委員代理（高橋利光委員） よろしくお願ひします。
- 小笠原一行中央病院事務局長 岩手町保健推進員協議会長、竹田裕子委員でございます。
- 竹田裕子委員 よろしくお願ひします。
- 小笠原一行中央病院事務局長 盛岡市国民健康保険運営協議会長、村田芳三委員でございます。まだお見えになっていないようでございます。

紫波町国民健康保険運営協議会長、新里哲之委員でございます。

- 新里哲之委員 よろしくお願ひします。
- 小笠原一行中央病院事務局長 岩手県社会福祉協議会理事、川村裕委員でございます。
- 川村裕委員 よろしくお願ひします。
- 小笠原一行中央病院事務局長 もりおか女性の会会長、柴崎一恵委員でございます。
- 柴崎一恵委員 よろしくお願ひいたします。
- 小笠原一行中央病院事務局長 紫波町連合婦人会長、瀬川智子委員でございます。
- 瀬川智子委員 よろしくお願ひします。
- 小笠原一行中央病院事務局長 アイリスの会会長、鈴木俊子委員でございます。

- 鈴木俊子委員 よろしく願いいたします。
- 小笠原一行中央病院事務局長 なお、岩手県議会議員の福井誠司委員、同じく阿部盛重委員、同じく千葉伝委員、同じく白澤勉委員、それから岩手町婦人団体連絡協議会長の
大坊邦子委員につきましては本日欠席ということになってございます。
- 続きまして、医療局職員及び病院職員を紹介させていただきます。時間の関係から前列の職員のみ紹介いたします。
- 医療局長、大槻英毅でございます。
- 大槻英毅医療局長 どうぞよろしくお願いいたします。
- 小笠原一行中央病院事務局長 医療局経営管理課総括課長、小原重幸でございます。
- 小原重幸経営管理課総括課長 よろしく願いします。
- 小笠原一行中央病院事務局長 医療局職員課総括課長、三田地好文でございます。
- 三田地好文職員課総括課長 よろしく願いいたします。
- 小笠原一行中央病院事務局長 中央病院長、望月泉でございます。
- 望月泉中央病院長 どうぞよろしくお願いします。
- 小笠原一行中央病院事務局長 紫波地域診療センター長、小野満でございます。
- 小野満紫波地域診療センター長 よろしく願いします。
- 小笠原一行中央病院事務局長 沼宮内地域診療センター長、菅原隆でございます。
- 菅原隆沼宮内地域診療センター長 よろしく願いします。
- 小笠原一行中央病院事務局長 中央病院看護部長、松浦眞喜子でございます。
- 松浦眞喜子看護部長 よろしく願いいたします。
- 小笠原一行中央病院事務局長 最後に私、中央病院事務局長、小笠原でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

4 会長あいさつ

- 板倉宏樹中央病院事務局次長 それでは、早速でございますが、当協議会会長の谷藤盛岡市長様からご挨拶をお願い申し上げます。
- 谷藤裕明会長 会長を仰せつかっております盛岡市長の谷藤でございます。本日は大変この足元の悪い中でございましたけれども、皆様方にご出席をいただきまして、まことにありがとうございます。

さて、平成28年度の岩手県の医療局の決算でございますが、県立20病院中、昨年度より黒字病院が1病院ふえまして、5病院が黒字、15病院が赤字決算となったようでございます。合計で差し引きいたしまして8億3,000万円余の赤字決算を計上したところでございます。その中で盛岡保健医療圏はと申しますと、中央病院、紫波及び沼宮内地域診療センターを合わせまして16億9,000万円余りの黒字を計上しているということでございます。

中央病院の状況を見ますと、救急患者数は1日平均60人前後、救急車搬送状況は年間で6,000人を超え、非常に多くの救急患者を受け入れている一方で、他の公的医療機関への診療応援は年間3,000件を超えておりまして、県立病院のセンター病院としての機能を発揮しているという状況でございます。

こうした中で、岩手医科大学附属病院の矢巾移転が平成31年の9月開院のスケジュールで進められており、盛岡地域の救急医療体制が大きく変わろうとしているところでございます。また、ドクターヘリのヘリポートは31年の3月完成予定で、現在着々と工事が進められておるとお聞きしておりまして、完成すれば救命率向上につながるものと大きく期待しているところでございます。

本日はこれらの内容を中心といたしまして、病院運営等についてご審議をいただきたいと思っております。委員の皆様のご意見、ご提言を賜りますようお願いを申し上げます。開会に当たりましての挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

5 開催病院長（県立中央病院長）あいさつ

6 議 事

(1) 岩手県立中央病院の現状と病院を取り巻く状況について

(2) 岩手県立中央病院（附属地域診療センターを含む）の運営状況について

(3) その他

7 質 疑

○谷藤裕明会長 それでは、次第に従いまして進行をいたします。

○谷藤裕明会長 状況につきましては、この後望月中央病院長のほうから挨拶を兼ねて引き続きお願いをしたいと思います。

それから、(2)の岩手県立中央病院及び附属地域診療センターの運営状況について事務局から説明をいただきまして、これを受けまして、この議事2つにつきまして一括での質問、ご意見を頂戴したいと思っておりますので、よろしく願いをいたしたいと思えます。

それでは、望月院長のほうから挨拶も兼ねて、ひとつよろしく願いをしたいと思えます。

○望月泉中央病院長　ご紹介いただきました中央病院の院長の望月でございます。日ごろ病院運営にはいろいろご配慮いただきまして、本当にありがとうございます。

本日もこの運営協議会に際しまして、中央病院の現状と病院を取り巻く状況ということでお話をさせていただきたいと思えます。お手元にプリントを配付しておりますけれども、スライドのほうをちょっと見ていただきながらと思えます。

私この写真が好きで、いつも表紙に使っておるのですがけれども、余りこの写真の由来を説明したことがなかったので、きょうは少しお時間をいただいて説明したいと思えます。実はこれ30年前の写真です。昭和62年の2月だと思えます。ちょうど中央病院がこの上田の地域に新築移転したのが昭和62年の3月でございまして、これ中津川のほとりにある旧病院の上から望遠レンズで撮った写真で、当時はこの辺に高い建物がなかったものですから、きれいに中津川のほうからこういうふうに見えたということであります。

それでは進みます。昨年12月、ちょうど一月前にこの上田地域に移転して30周年ということで、職員で手づくりの本をつくりましたので、少しお荷物にはなりますけれども、皆様にお持ち帰りいただきたいと思えます。これから職員が配付をいたしますので、よろしく願いいたします。

これは29年、昨年4月の現況で、病床数は685床、28科、職員数は1,251名、医師数が183名ということで、これでも医師数は少ないです、同規模の病院からすれば。それでもまず何とか医師が集まってくれているのかなと思えます。

地域医療支援病院、地域がん診療拠点病院、へき地医療拠点病院ですね。病院機能評価はサードバージョンを取得しているということであります。

手術件数は全身麻酔が大体4,000件ちょっと、全手術件数が5,400件ということで、かなり多くの手術を行っております。分娩件数は約600件ということです。

どうということかと申しますと、これはいつも平均在院日数、病床利用率、新入院患者

数ということでお出ししているスライドですけれども、平均在院日数が平成12年ですから今から16年ぐらい前ですか、22日ぐらいから18、16と、ずっと下がってまいりまして、この辺は13日ぐらいだったのですが、今は12から11日台、11.8日、12日ということで、どうしても急性期病院としては在院日数が低下していく傾向にあります。それにつれて病床利用率も92%という時期も平成23年にありましたが、在院日数、入院期間が短くなればなるほど病床を利用する率は下がってきます。ですから、患者さんの入れかわりは激しくなります。入院のベッド自体には常に余裕がある状況で対応しておりますので、救急患者さんを断らずに診ることは入院してできるということでもあります。

それから、これが平均在院日数です。先ほど経営指標も市長さんから話していただきましたけれども、この金額の書いてある数字が1日の平均ですね、入院診療単価と申しまして、平均して1人の患者さんが幾ら医療費がかかっているかということになるので、すけれども、この辺は4万2,000円ぐらいから、ずっと上がっていきまして、逆比例になるのです。在院期間が短くなればなるほど、本当に医療を必要とする人が入院するということでもありますので、単価は上がってきまして。12月ですか、昨年12月にはここが7万円を超えましたので、かなりの医療費が投入されているということでもあります。

岩手県は、極めて医師不足が強い県でございます。特に県内でも内陸部には比較的、盛岡を中心にして医師はおりますけれども、県北・沿岸地域は極めて医師が足りないということでもございまして、当院から年間3,000回以上の診療応援というのをしております。つまり、1日平均8名の医師が不在になっております。このオレンジのカラーは、県立病院です。この県立宮古病院は、特に麻酔科医がおりませんので、麻酔の医師がほぼ毎日ここに診療応援に行っております。磐井病院もそうですね。あと千厩病院は医師が不足なので、ここには常勤対応の医師を出しているというようなことです。このカラーの大きさが診療応援の回数をあらわします。このブルーは、市町村立病院で、葛巻病院、済生会岩泉病院ですか、ここは田野畑診療所という診療所にも行きまして、今ここには常勤医が来ましたが、昨年、一昨年はおりませんでしたので、こんな形の診療応援をしております。年間大体3,000件というふうな回数で、何とか岩手県の医療を守っているという状況であります。

救急車の話が先ほど出ましたが、平成11年から28年まで、これはいつも使うスライドですけれども、盛岡医療圏全体でも右肩上がりに、救急車の搬入状況ですけれども、ふえてきます。ここ一、二年ちょっと低下傾向にはなっておりますけれども、ずっ

とふえていっている。その分は中央病院が、この増えた分を受け持っているような形でありまして、平成12年では中央病院は約4分の1、この医療圏の救急車を受け持っていました。ここは、大学病院です。大学病院が36%、日赤病院が15%という状況でしたけれども、一定の件数は診てはおるのですけれども、増加分ということなので、平成28年度はこの医療圏の約半数の救急車を受け入れたという状況であります。

先ほど大学病院の移転の話も出ましたけれども、二次救急の患者動態という、これ盛岡市医師会を出してくれている表なのですけれども、28年度を見ますと、こちらのグラフで見ていただいたほうが見やすいです。外来患者数は、やはり大学病院、岩手医大が約2万人の外来患者数を診てくれています。中央病院は1万4,000人ぐらいですね。入院患者数で診ますと、中央病院は1万4,000人中三千五、六百人ぐらいですか、約4,000人弱が入院しております。岩手医大の高度救命救急センターは、この統計に入っていないので、三次救急は除くというふうに見てください。一次、二次救急です。そうすると、2万人のうち入院患者さんは一千二、三百人ということですので、大学病院も、一次救急、いわゆる軽症の方をウォークインと言って、歩いてくる患者さんも多く診てくれているということです。内丸地域の非常に場所がいいところにもありますし、全科そろっているということもあって、ここにウォークイン、一次救急の患者さんも多く非常に診てくれているということでもあります。ですから、移転ということになりますとこの外来患者数をどうやって診るかということがまた問題になって、大学のほうも内丸メディカルセンターとか、まだまだ構想が固まっていないようなのですけれども、そこら辺のところを見ながら盛岡市医師会の、きょう和田会長がご出席しておられますけれども、この夜間の一次救急ですね、こういった体制をどうやっていくかということが今議論をしているところであります。

これは、単年度累積損益の推移と、経常収支、医業収支比率で、昭和62年に新築移転しますと、これ減価償却費ですね、新築ですからかなりかかって、単年度ずっと赤字が続きますけれども、平成10年、11年ごろには累積損益で約58億円という損益が出ていましたけれども、ここから業務改善ですね、平成12年に樋口先生が病院長になられまして、みんなで急性期病院というのを頑張ってみようというようなことがあって、そこからずっと経営改善がされてきてまして、平成15年、16年、この辺から単年度黒字が出るようになりまして、いわゆるV字回復ですね、累積では今プラスの117億円ということなのですけれども、これは県立病院全体での財布が一つになりますので、このお金は全

くありません。多分医療局全体ではどのぐらいですか、赤字は今全体的に。

○大槻英毅医療局長 400億。

○望月泉中央病院長 医療局全体での赤字が400億、この400億円というのはちょっと理由がありまして、職員が一斉に退職した場合の退職給付引当金というのを積んでいますので、会計制度の関係ですね、それがおおよそ200億ぐらいあるのではないかなと思っています。

医師数ですけれども、なかなかこの常勤医の数、これ100人ぐらいでずっと来ておったのですが、ここのところやっと120人、このブルーの121まで少しずつはふえてきましたけれど。この若手の医師が結構ふえてきて、いわゆる初期研修医が1年次19名、2年次18名で37名。2年間ですね。いわゆる研修医です。これ後期の研修医、いわゆるレジデントと言うのですけれども、これは25名ということで、この辺が頑張って病院を結構活発化しております。研修医、レジデントの数の推移は、1年次がグリーン18名、2年次が19名ということであります。この4月からは、新しい専門医制度も始まりますので、このいわゆる専攻医、後期のレジデントの数が心配をしておったのですけれども、まずまず専攻医の数は確保できそうですので、診療支援等もできるのかなと思います。

さて、先ほどヘリポートの話が出ました。盛岡医療圏、盛岡市におけるヘリポートは、ドクターヘリは矢巾が発進基地なのですよ、今は。矢巾から飛び立って、今医大も盛岡の中心部にありますので、盛岡の中心部にヘリが戻ってくる場合、おる場所は盛岡東警察署の屋上にあります、東警察署。ただ問題は、この12月から3月、この4カ月間の冬期期間は、東警察署の屋上には融雪設備はあることはあるのですけれども、氷がついたりして、ヘリがおると氷が周りに飛び散る可能性があるのと、歩行者に当たったりすると大変だということで使用禁止になります。12月から3月、その間、この4カ月間は県営球場の野球場の駐車場を除雪して、そこにドクターヘリがおいて、救急車がそこにランデブーして、救急車に乗りかえて運ぶということで、ドクターヘリの時間のメリットがなかなか生かせないということがあります。何とか盛岡、特にこの中央病院の近くに、中央病院の敷地内にできれば一番いいということで何か所か、これは駐車場ですね、立体駐車場とか、本館とか、増築棟とか、ありとあらゆる場所を検討してもらいましたが、結局は耐圧構造とか、設計上の問題とかで、30年たっていますので、この中央病院の屋上に置くのは無理だということがわかりまして、唯一この14番、ここだけは角度、入ってくる角度、この角度に高い建物があるとダメなのですけれども、ここ

は可能、オーケーということになりました。ここはどこかといいますと、ここは杜陵高等学校のグラウンドがありまして、これグラウンドですけれども、北側の格技場というのがここにあるのですけれども、この格技場をちょっと移動してもらおうとここにヘリポートをつくれるということになりまして、昨年9月から工事が始まりました。今言った、飛び立って、入射角と反射角というのですか、90度の角度が保てることが非常に大事なのだそうです、ヘリがおりてくる。真っすぐにおりるオスプレイではないから、こうはおりないですね。こうおりるので、斜めに入るイメージになりますので、ここに高い建物があったりするとまずいし、あとこのヘリポート自体も10メートルぐらい上げなければならないのです、ずっとやぐらを組む形にして。設計図を引いてもらいまして、この高さもある程度の高さ、10メートルぐらいがここですね、この高さが。そうすると、この耐圧設計で、ドクターヘリというのは割と小型のヘリなのですけれども、岩手県には防災ヘリありますよね、「ひめかみ」。あの「ひめかみ」もおりられるような設計にしなければいけないということで、このところをちゃんとしてもらいまして、防災ヘリもここにおりられることになりました。防災ヘリがもし盛岡の中心街で大きな災害とか起こった場合、防災ヘリで矢巾に運ぶとか、圏域外の搬送が可能になりますので、受けるだけではなくて、こちらから運び出すということも必要になりますので、そういった意味でこのヘリポートは非常に有効ではないかなと思います。

杜陵高校のグラウンド、これは今格技場を新しくしているところなのですけれども、これが格技場なのですけれども、これをこちらに移動して、この格技場の移動した跡地を形取るような形で盛岡地区ドクターヘリポート整備ほか工事ということで、発注者が達増知事でございます、こういう看板が出て、これは中央病院のところから見ますとこれが格技場で、今はもう少しこれができてきました。

これは他県の例ですけれども、イメージはこういうふうに、やぐらが組み込む形で、高さが10メートルですからかなり高いですね、これ。こんなふうなイメージで、ここはつながっていますけれども、我々のヘリポートは独立型になって、患者さんがエレベーターで下におりるわけです。150メートルぐらいしか離れていませんので、すぐに手搬送でも中央病院のほうに運べますけれども。救急車で搬送というようなことを考えております。平成31年3月完成予定でございます。

それから、救急センターなのですけれども、これは24時間365日救急車の受け入れは断らないという病院のミッションで、全診療科がオンコール体制で多くの医師が当直をし

ながら救命救急センターと同等の役割をしながら救命救急医療を支えてきましたけれども、15年間で倍増しております、救急車は。でも、スペースは全然ふえないわけですから、今は本当に手狭になりまして、実は年末にはこれ以上救急車は受け入れないということで、泣く泣く何台か救急車をお断りいたしました。これはもう病院のミッションにも反するという事なので、何とかこのスペースを広げることが必要ではないかなというふうに思っておりますので、この救急センターの拡張工事をぜひやっていきたいというふうに思っております。

これが案でございますけれども、こっちが改修前ですけれども、廊下を隔てて、この一部に、これもうちよつとこちら側に行くのですけれども、あとエックス線、レントゲン室の移動とか、同時にこの隣にE R病棟10床の経過観察入院の病棟を併設しまして、こちらで処置をしながら、経過観察必要で、入院が必要な場合にはすぐこちらに移動することによって、この初療室は回転率がよくなりますので。年末はこういうのがないので、この初療室がすぐ患者さんでいっぱいになってしまったのです。そして、受け入れないというようなことがありましたので、このところはぜひ拡張工事をこの4月から本格設計をして行っていきたいというふうに思っています。

それから、地下に当直室を今度は移すということになります、E R病床をつくるために。

それから、ハイブリッド手術室というのが最近大きな急性期病院ではできてきます。現在東北地方では、全ての大学病院にハイブリッド手術室が設置されてきたということで、これはどういうことかといいますと循環器とか、あと脳神経内科、外科領域のカテーテル治療ですね、エックス線装置でDSAと言うのですけれども、透視をしながら全身麻酔をかけて、血管内治療を安全に行うということが可能になるということでありますので、手術室で行うエックス線透視を要すると、全ての手術が対象となりますので、ぜひこのハイブリッド手術室の整備も必要かなと思っております。

これも改修する3階の更衣室、こちらは改修前で、こちらは手術室、更衣室を移動することによって1部屋手術室を広げることができるということでもあります。

これは当直室、その他の整備。

あと透析室なのですけれども、透析室は今非常に狭くて、ここだけなのです。ここに7台ベッドを置いて、透析医療器械7台、今は1つの透析台を1日3回に回すとか、夜10時ぐらいになってしまうのですけれども、そんなことまでやっていますので、一次透

析ではなくて急性期透析なのですけれども、これが必要になってきましたので、これ段階的に少し形は妙な格好になりますけれども、リハビリ室を少し食い込む形にして、今後14台から15台に透析台をふやしたいと考えております。

これは28年度ですね、これ第1回のオープンホスピタルです。中高生を対象に500人ぐらい、これちょうどこの部屋なのですけれども、ここに僕がいるのですけれども、全部主に中高生、あとは地域住民の方がお集まりいただきまして、いろんなところ、病院内を全て開放しながら、病院というのはこんなにいろんな職種の方がいるということを見ていただきました。こんなふうに、これは実際に臓器を使った縫合体験です。これが昨年、第2回のオープンホスピタルです。10月29日、これは1階で行いました、今度は広々としたスペースで。この日は非常に大雨が降って、入場者数は少し減ったのですけれども、でもまず活発にこういった医療のいろんなデパートメントの人たちが、若い学生が多かったですね。中高生が多かったですけれども、お会いしてお話をして、少しでも医療に進んでもらえ、医療に興味を持ってもらいたいなということでもあります。

これは一昨年になりますけれども、県立中央病院の2016年の6月に出しました。これが昨年、平成29年、まだ1カ月前ですね、また本をつくりまして、「30年の軌跡、新たな歩みのために」ということで、上田移転30周年記念誌を作成いたしまして、写真集とか、今何か出てきましたですね、これ少し荷物になりますけれども、お持ちいただければと思いますので。中身は30年の中央病院の上田に移転してからの流れになりますので、ちょっと重くなりますけれども、参考にさせていただければと思います。

ということで、これは2017年のさんさ踊りの参加記念です。総勢240名で参加いたしました。

ご清聴ありがとうございました。以上でございます。

○小笠原中央病院事務局長 それでは、引き続きまして、資料に基づきまして盛岡地区県立病院の運営の状況についてかいつまんでご説明いたします。なお、ただいまの院長のプレゼンテーションございましたので、これと重複する部分に関しては多少省いて、コンパクトにご説明したいと思っております。

まず、お手元の資料1ページ目ごらんいただきます。1ページ目には、この盛岡保健医療圏の県立病院等の医療機関のそれぞれの役割であるとか位置づけ、これが記載されてございます。

まず、(1)番、県立病院群の機能分担・連携ということで、当院は急性期の高機能病院というふうなことで、岩手県全域を対象としておりまして、先進医療、高度医療、特殊医療等を提供しております。そのほかに、これに加えて、基幹型の臨床研修指定病院ということで教育等をあわせ持っている。先ほど院長のプレゼンにもございましたが、加えて地域の病院であるとか、あるいは診療所に関して診療応援を行うと、年間おおむね3,000件ほどというふうな形をやっております。

続いて、紫波地域診療センターでございますが、当院の支援等を受けながら、紫波地域のプライマリーケア、初期医療でございますけれども、これや慢性期医療を担うと、こういうふうな役割になっております。

それから、沼宮内地域診療センターでございますが、同様に当院の支援を受けながら、沼宮内地域のプライマリーケアや慢性期の医療を担うと、こういうふうな位置づけでやっておりまして、県立病院群の一体的、効率的な運営というふうな例としまして、圏域の業務、例えば診療材料の共同調達であるとか、検体検査業務、滅菌業務等、こういったものを当院のほうに集約して効率的な運営を図っていると、こういうふうなことが記載されてございます。

それから、2ページをごらんいただきます。このページからは、患者数等に関連するデータにつきましては、できるだけ参考としまして29年の11月末というデータもあわせて記載してございますので、ごらんになっていただきたいと思っております。

まず、2ページでございますけれども、先ほども出ましたが、診療科の医師数の状況、29年のこれ11月1日現在ですが、当院、紫波地域診療センター、沼宮内地域診療センターで合計で181名の医師がいます。中ほどのところに形成外科というのがあります。このところでは、当院が1名というふうな先生になっていますが、ここが29年度から新設された診療科でございます。

それから、ちょっと飛びまして6ページをごらんいただきます。6ページについては、入院患者等のデータが出てございます。28年度が大体580名、11月の累計では556名ということで、中ほどの当院のグラフ見ていただければおわかりですけれども、おおむね入院患者につきましては緩やかに減少の傾向にあると、こういったことが見て取れるかなというふうに思っているところです。

続いて、7ページをごらんいただきます。7ページにつきましては、平均在院日数の状況ということで、ここはおおむね各年度とも12日前後で推移していると、こういうふう

なことが見て取れるところでございます。

続きまして、8ページでございます。この8ページにつきましては、外来患者の状況でございます。外来患者につきましては、過去5年ほどでおおむね1,100名ほどで推移している。それから、紫波センター、沼宮内診療センターについても、28年度は紫波センターでは49名、それから沼宮内診療センターでは40名という形で、ここもそんなに大きく動くことはない。ちょっと沼宮内さんのほうで28年度が少し減りめではありますけれども、こういうふうな状況で外来患者数も推移しているところであります。

それでは、また飛びまして15ページをごらんいただきます。15ページにつきましては、当院の29年度の事業運営方針ということで、当院の事業運営方針につきましては「Double Winner!」というふうに書いてございますけれども、これが当院の中長期計画でございます。この計画は26年度から30年度までということで、現在29年度につきましては計画の4年度目というふうな形になってございますが、この「Double Winner!」という中長期計画のそもそもの目的というふうなこととなりますけれども、一番上に書いてございます「高度急性期医療を推進する県民に信頼される親切であたたかい病院」と、こういう病院づくりを目指して下のところに行動指針ということで、7つの行動指針が書かれております。良質な医療の提供、医療人の育成、診療支援の実行、救急医療の充実、災害医療の体制整備、臨床研修体制の整備、健全な連携と、こういうふうな7つの行動指針を挙げてこの5年間、この中長期計画を推進していくということになってございます。

隣のページにちょっとその詳細でございます、16ページをごらんいただきます。この中では、まず1番の高度急性期医療・専門医療の推進というふうなものについてかいつまんでご説明します。

(2) 番の中の3つ目のポツ、高度医療機器の更新整備（30年更新機器の具体化、選定）ということで、29年度につきましてはこの更新整備の中で、CTにつきましては64列から320列という、こういった機器に更新をしております。

それから、あと(4)、患者満足度の向上のところ、最後のポツ3つ目でございます。外来待ち時間対策の検討実施ということで、これは近々2月13日より各外来をごらんになっていただければおわかりなのですけれども、各外来のところにちょっと大きめのモニターを設置してございます。2月13日から診察案内表示システムというふうなものを導入しまして、いずれ患者さんご自身で、自分は次何番目ぐらいなのだろうという、

こういうふうなものを表示するというふうなシステムを稼働しようということで今進めて調整しているところです。

それから、2番の顔の見える連携の強化というふうなことにつきましては、いずれ地域連携というふうなことも非常に大事なポイントになってございます。そういった中で、地域連携の協議会等も開いているわけですけれども、29年度につきましてはこの中で整形外科の地域医療カンファレンスというものが自発的に連携の中から生まれて、8月に開催されております。もうちょっとたちましたらば、その2回目というふうなものを開催される予定になっているということで、地域連携も全体的なもの、それからそういった部分的なものに関しても、育ってきているということが言えるのかなと思ってございます。

それから、3番目の職員の業務軽減の推進と職員満足度の向上ということで、(3)番のところですね、これ第6回の岩手県立病院総合学会の開催ということで、これは5年に1度県立病院全体での学会なわけですけれども、これは当院が9月2日に行いまして、1,700名ほどの参加を得たところです。

それから、あとずっと下に行きまして、6番の研修医及び専攻医、医療従事者の確保と養成に向けた取り組みの推進ということで、先ほど院長のプレゼンのスライドにもありましたオープンホスピタルでございます。確かに天候がよろしくなくて、1回目の500名ほどにちょっと欠ける375名というふうな参加ではございましたけれども、そういった中で中高生が多数おいでいただきながら、各ブースで例えばいろんな説明と、今回に関しては、リハビリテーションに関しての相談なりというふうなことが多かったのかなという印象があるところでございます。

それから、あとは7番、最後になります。収益の確保と費用の効率的執行による経営基盤の強化というふうなことで、(1)番のポツの2番目ですけれども、上位または新たな施設基準の届出による収益の確保ということで、29年5月から認知症ケアの加算というふうなものをとらせていただいているところです。

それから、あと最後になりますけれども、17ページ、18ページにつきましては2つの地域診療センターの事業運営方針を載せてございます。それぞれが地域におけるプライマリーケアあるいは慢性期医療というふうなものを担う役割というふうなものを明確にしながら、医療の質の向上であるとか、経営の効率化というようなものをセンター長を中心に日々奮闘しているところでございます。

以上、説明終わります。

○谷藤裕明会長 では、中央病院の院長先生のほうからも含め、事務局のほうからずっと一連の説明等をいただいたわけですが、（１）、そしてまた（２）につきまして皆様方のほうからご質問、ご意見あればいただきたいと、このように思いますので、よろしくをお願いします。

特に沼宮内、また紫波地区、それぞれのところからの説明は先ほどの事務局の説明でということですのでよろしいですね。そういうことですので、その部分も含めて皆さん方のほうからご質問、ご意見あればいただきたいと思います。

今岩手医科大学の平成31年9月ですか、動きがあるわけですが、和田先生、その辺も含めて何かあれば。

○和田利彦委員 岩手医大は平成31年、当初は4月の予定でしたが、9月に延期になって、内丸では最初救急はやらないというお話をいただいたので、盛岡市医師会と岩手医大と協力して、何らかの形で初期救急はやらないといけないというふうに考えて協議をしてまいりましたが、今年というか、今年度になりまして岩手医大の内部で、独自にやりやりやっっていかなければいけないという話になっております。細かいことはまだ決まっていませんが、岩手医科大学で独自に初期救急はやるということで話は今後進むと思います。

あと盛岡市医師会でやっております夜間急患診療所と休日当番医制度、現在の部分に対しては引き続き継続して行うということでございます。

○谷藤裕明会長 いろいろまだ動きはあるようでございますけれどもですね。

はい、どうぞ。

○民部田幾夫委員 岩手町でございます。今和田先生からもありました、またさつき望月院長からもありました。31年、盛岡中心地にあった岩手医大が矢巾町に移転をすると、それについては協議をしながら体制を構築して対応できるようなものにしていくという説明をずっと岩手医大でもしております。

しかし、きょうこの数字を見てわかるとおり、岩手医大への負荷が、入院、通院を含めてですね、大きく中央病院に負荷がかかるのではないかと。今後検討するというようなニュアンスの表現を望月院長は説明していましたが、もうあと間もなく31年、31年がすぐ来るという中において、県南のほうは対応できるでしょう、恐らく。一方、盛岡以

北においては、盛岡よりも矢巾町は遠くなる。そこに心理的なものもあるのでしょうか、物理的、時間的な負担も多くなるであります。そういうのを総合的に勘案したときに、新しい方策というのは考えられないのでしょうか。

○谷藤裕明会長 はい。

○望月泉中央病院長 ご質問ありがとうございます。新しい方策というよりか、内丸メディカルセンターですから、大学として内丸地域にどういう救急機能を残して、どういう形でやるかということで、最初は盛岡市医師会との夜間診療所、どういうふうな立ち位置になるかという議論はしてきたのですけれども、大学として内丸地域で救急をやるということなのです、今のところですね。どこまでの救急機能を内丸に持ってやるかというところは、大学のほうとしての戦略はまだ見えてこないところがあるのですけれども、中央病院は恐らくふえるだろうという予想はあります。それで、この改修工事もこの4月からは取りかかりたいと、設計にですね。そして、ただ移転までにはなかなか間に合うかどうか、ぎりぎりになると思うのですけれども、改修というか、拡張工事ですね。そして、受け入れ態勢は整えていきたいというふうに思っております。

あとは二次救急対策委員会というのが盛岡市医師会で、私ももちろん委員で入っているわけですが、二次救急の輪番制というのがあって、医大、中央病院、日赤病院、この3つの病院だけではなくて、そのほかの病院も輪番制B群という形で入っておりますので、そういった病院とも協力をこれからしながら、いわゆる二次救急は入院が必要になりますので、それは多分大丈夫だと思うのです、矢巾とこちらで両方でやりますから。一次救急ですよ、そこのところを一次救急の患者さんまでが中央病院にどっと来られるともうパンクしてしまいますので、そこのところのすみ分けを議論していきながら、皆さんで知恵を出し合う形で体制を組んでいきたいというふうに思っています。よろしいでしょうか。

○谷藤裕明会長 はい、どうぞ。

○民部田幾夫委員 今院長先生から説明もありました。そのとおりなのです。医師会でも全面的に協力することにおいて、体制を組んでいくという説明であります。

そういう文章は書けるのですが、実際事に当たったときに、果たしてそれでいくのかということもあります。その中であって、一つ選択肢として、例えば沼宮内地域診療センター、今でも立派な病院が手つかずにとってあるような感じであります。それから、サテライト、何をもってサテライト的な機能かということ、いろいろ分かれるのです。一

般に言うサテライト的、それぞれサテライトに対する思いは違うのですが、そういう活用、多様化した活用によって中央病院の負荷を、またその負担を軽減することによって、全体の盛岡以北の医療の安定に寄与することができないものかと考えますが、その点はどうなのでしょう。

○望月泉中央病院長 すみません、医療局長から。

○大槻英毅医療局長 医療局長でございます。まずは二次救急ですが、例えば救急車で運ばれてくる患者さん、これらについては医大と、医大が矢巾に移っても、医大と中央が中心となってきちっとさばけると思います、今までと変わらずさばけると考えています。

問題は、先ほどの院長が説明したグラフの中に三次救急の患者さんがいないのですよね。

○望月泉中央病院長 そうです。

○大槻英毅医療局長 三次救急の患者さんは、最初から医大のほうに行っているわけです。それから、一番問題になるのは、ハチに刺されたとか、土日の時間外に自分で車を運転したり、あるいは歩いて来られる患者さん方の対応をどうするかというのが、今まで医大が街の真ん中にあるものですから、非常に行きやすいということがあって、かなり使われていたと。その患者さんをどのようにやっていくかというところが問題でございます。それは和田会長さんや開業医の先生方の輪番制と、それから市内の、中央も含めてですけれども、それがうまく分けて診ていくというような格好をとらなければならぬだろうというふうなことでございます。

それから、医大も内丸から大学は移るのだけれども、そこにメディカルセンターというものを、機能を残すような話もあるということで、その部分がまだ見えないので、どういう仕分けになるかというのはまだ見えないという状況でございます。

それから、あとは北部の医療体制の充実という話は、これはたまたま県立病院は北部でいえば中央病院と一戸病院の間、沼宮内というふうな格好になりますけれども、岩手郡でいいますと平舘といいますか、八幡平市のほうにもありますし、そういった病院の中で救急車の対応をやっていくという話になろうかと思えます。二次医療圏の中で、そういう格好で分けて、救急患者を診ていくという格好になろうかと思ひまして、逆に確かに町長さんおっしゃるとおり、沼宮内の診療センターまだまだ立派なのでございますけれども、非常に新しい病院がああいう状況で休止の状態になっているというのは非常に何とも言えない部分もございますけれども、まだまだ違う活用の仕方もあるのではな

いかと。これから救急、それから高度医療だけではなくて、まさにお年寄りが在宅と、それから施設と、それから病院の中でぐるぐる回ってケアを受けていくという、そういうような時代が変わっていきますので、そういった中で活用の仕方というものをいろいろと考えていきたいなと考えてございます。

○谷藤裕明会長 はい、どうぞ。

○民部田幾夫委員 大槻局長からありました。まさにそのとおりでありましょう。ぜひとも新しい施設をつくる要望であれば到底無理である。しかし、ある、手つかずにとってあるとっていいぐらいきれいにあります。そういう意味において、今局長からも説明がありました、時代の変化に対応できるような、またそれに即応できるような活用が可能であれば、また可能になるようにいろいろなお知恵を拝借できればと思っておりますので、よろしく願いをいたします。

○谷藤裕明会長 そのほかございますでしょうか。いずれ、今沼宮内病院まだまだ活用十分にできる状況にあるということの施設なようでございますので、そこら辺も研究していただければなと思います。

木村先生よろしいですか。

○木村宗孝委員 その問題からちょっと外れて、先ほど今度新しくハイブリッドの手術室ですか、あそこに関してはいろいろな科が使用するような形で。

○望月泉中央病院長 はい、そうです。

○木村宗孝委員 ぜひ立派なものをつくっていただければと思っております。

○望月泉中央病院長 結局ですね、この中央病院30年ということで、31年です。あとどのぐらい使えるかという問題もあるのですけれども、恐らく30年たってこういう状況ですから、あと多分20年は使わざるを得ないのではないかなということがありまして、ハイブリッド手術室の機能は今必要だということで、何とか改修工事、でもお金がかかる話なので、順次優先度をつけてやっていかなければいけないというふうに思っています。

○木村宗孝委員 遠隔手術とか、そういうのも含めたものになるのでしょうか。

○望月泉中央病院長 遠隔はないです。

○木村宗孝委員 それはないのですか。

○望月泉中央病院長 はい。

○谷藤裕明会長 ほかございませんでしょうか。特になければですね、今のところ中央病院、それから沼宮内、それから紫波の地域の診療センター含めてということでございます。

すけれども、せっかくですからその他ということで何かあればどうぞ。

○木村宗孝委員 紫波郡医師会でございます。先ほど一緒にちょっとお配りしましたカラー一刷りのがあると思うのですが、各市町村に1カ所在宅医療連携拠点というのを設けることということで、昨年度までに大体の市町村にこういったものができた形になっていると思います。

紫波郡の場合は、紫波町と矢巾町共同で在宅医療の連携拠点を設けることで共同設置として行っております。また、これを紫波郡医師会が紫波町、矢巾町から受託を受けまして、運営している状態であります。現在は、研修等の事業を中心に行っておりましたが、徐々に在宅の患者さんに関して急性期の病院から診療所のほうに少しずつここを通して患者さんを振り分けていければ、それが一番患者さんのほうにもいい形がとれるのではないかとこの方向で動こうと思っております。まだちょっと検討の段階ではございますけれども、できれば県立中央病院から退院する場合でも、紫波郡の患者さんに関しては、こういったところで、こちらに紹介していただきまして、そこから患者さんの一番いい方向のところからここからまた紹介するというような形をとればと考えております。

何とぞご協力のほど、決まりましたらもうちょっといろいろな紹介しやすいような方法とか、もう少し協議してやっていきたいと思っておりますので、ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

以上です。

○望月泉中央病院長 ありがとうございます。まさに地域包括ケアを構築していく医療介護連携ということが今や求められております。

先ほど私のところで在院日数、入院期間が11日台ということは、もう入院したときパスということを使って、医療工程表をお示しして、退院など日にちまで想定して、その後のつなぐことですね、シームレスにつなぐということで、介護の方はケアマネさんが病院にも来ていただいて、そこで会議を開いて、そしてこういった包括支援センターとつなぐということを今退院支援看護師中心に10名かな、退院支援看護師置いてやっておりますので、ぜひ紫波郡の包括ケア推進支援センターですか、連携してやっていきたいと思っておりますので、情報をまたいただければと思います。よろしくお願ひします。

○谷藤裕明会長 ほかございませんでしょうか、その他ということで結構でございますけ

れども。これはそれぞれの各地域にも、市町村にそれぞれですね、置くことになっているのですね。

○木村宗孝委員 つくることというふうな、はい。

○谷藤裕明会長 その辺も含めて、また各市町村との連携もよろしくお願いをしたいなと思います。

ほかございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、本日の議事のほうは以上で終了させていただきたいと思います。ありがとうございました

8 医療局長あいさつ（御礼の言葉）

○板倉宏樹中央病院事務局次長 谷藤会長様、ありがとうございました。

ここで、大槻局長のほうから御礼の言葉を一言頂戴いたします。

○大槻英毅医療局長 本当にきょうはありがとうございました。なかなか専門的な部分もございますし、皆さんの率直なご意見なかなかシャイな皆さん方だったと思ひまして、出なかった部分もございますけれども、この会議の場だけではございません。私どものほう、医療局でもよろしいですし、それから中央病院でも結構でございます。皆様のご意見が我々を進歩させていただけると思っておりますので、ぜひお話を寄せていただければと思っております。

きょうは本当に雪の中でしたけれども、こういった機会に集まっていたいただきありがとうございました。望月院長のほうからのお話もございましたけれども、医師が非常に少ない岩手県でございますけれども、10万対の医師数が全国平均を上回っているのは盛岡圏域だけという話でございまして、それ以外のところは全国でも下のほうの医師数なわけで、そういった中で大学病院もそうですが、中央病院も一生懸命そういった先ほどの表にありましたとおり、図にありましたとおり、県内各地に診療応援に行っています。また、そういったことが若いお医者さんたちの勉強にもなるというふうなことで、中央病院はただ単に救急医療を担っているだけではなくて、言ってみれば医師のマインドを育てているといったような部分もあろうかと思ひます。ここで勉強して、ここで働いたお医者さん方が県内に散らばって、岩手県の地域医療を守っていくというふうにご考えてございますので、ぜひ温かく見守っていただければと思ひます。

それから、またいろいろと新聞紙上などで医療関係、非常に激務だというふうなお話が出てございまして、働き方改革の中でやり玉みたいな格好で挙がってございます。また、それと同時に、お医者さんの超過勤務の時間数もそのとおりですけれども、それだけではなくて病院というのは、看護師さんが非常に数が多いということで、女性の職場でもございます。そういった女性のライフイベントの中で出産とか、子育てとかある中で、皆さん頑張っていますけれども、そういった職員が長く勤めて皆様の医療のほうに貢献できるように医療局としてもいろいろと、例えば院内の保育所の整備とか、こういったものやっけていまして、そういったことが周りから見ている、あそこの職場はこういったところもやっけているなということが、それがまた社会にそういった動きが繋がっていくという面もあるかと思っておりますので、そういった部分も力を入れてやっけていきたいと考えてございます。

本当に30年の月日がこの建物はたっけてございますけれども、私も高校時代この辺ふらふらしていたときは、ここはまだ専売公社でございまして、今禁煙外来をやっけて、敷地内禁煙になっていますけれども、隔世の感がございまして、そういった長い年月がたちましたが、またしばらくこの場所で建てかえることなくやらざるを得ないのかなと思っておりますので、ぜひとも皆様の変わらぬご支援を賜ればと思っております。本日はどうもありがとうございました。

9 閉 会

○板倉宏樹中央病院事務局次長 それでは、これもちまして盛岡地域県立病院運営協議会を終了いたします。長時間にわたりありがとうございました。お疲れさまでした。